

東日本大震災・緊急消防援助隊派遣を終えて



【所属】 消防本部総務部

【階級】 消防司令補

【名前】 湫 隆博

私は、3月11日の東北地方太平洋沖地震発災から4日後の15日の夕方に緊急消防援助隊大阪府隊第7次派遣隊の一員として、多くの方々に見送られ、徐々に高まる緊張感と使命感を胸にバスに乗り込み、改めて今回の派遣の重要性を感じ、被災地岩手県に向け出発しました。

雪の影響もあり、現地まで約30時間かかり、16日の深夜に岩手県に到着しました。

雪が降りしきる中、17日に活動拠点である大槌町に向かい、いよいよ活動開始となりました。その途中、道路脇には土砂が堆積し、歩道に車が横転していたり、家屋が倒壊していたりと、私が今までに見たことのない非日常的な光景が現われてきました。被害の甚大さ、自然災害の脅威を目の当たりにし、今までの災害現場とは全く異なる活動になることが予測されました。到着した大槌町は、寒さも厳しく、多くの建物が津波で流され、無数のがれきや土砂が堆積している地区でした。直ちに、活動を開始し、手作業でがれきを動かし、土砂をかき分け、必死の思いで生存者を探しました。その非日常的世界の中で私の足元には、小さい子供の衣服や靴、家族の思い出の写真等のかつての生活の跡が残されており、本当に胸が詰まる思いの中での活動でした。結果的に、数名の方を発見しましたが、生存者の救出には至りませんでした。

活動を終えて感じたのは、非常に厳しく、多くの悲しみが溢れた現場活動であったということです。改めて市民の生命、財産を守るという消防の崇高な使命を感じ、この災害現場での活動を他の職員や今後入職してくる職員に伝え、消防職員と枚方・寝屋川両市民が一丸となり、災害に立ち向かっていける強い街づくりに、日々邁進していきます。

最後に、今回の震災により亡くなられた方々とその御遺族に対し、深く哀悼の意を表するとともに、被災地の一日も早い復興を心から願います。